

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101850		
法人名	一般社団法人慈恵会		
事業所名	グループホーム新城		
所在地	青森県青森市大字新城字平岡258-9		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族との連絡を密にとり、入居者が「安心・安全・安楽」に、満足していただけるような支援づくりを心がけている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成26年10月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体法人は地域に密着した医療、介護、福祉サービスの提供を行っており、当該事業所も開設後10年を経過し、経験豊富な管理者、職員が利用者一人ひとりが安心・安全により良い暮らしができるよう、日々の支援に取り組んでいる。 職員は日々のケアのあり方を話し合い、季節毎の外出や各種クラブ活動を立ち上げ、利用者の趣味や特技を再現してもらいながら、本人の気持ちや意向に沿った楽しみ方ができるよう、支援に努めている。また、管理者は利用者に接する時には「笑顔と優しさ」を職員に指導し、実践されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が地域密着型サービスの役割を理解しており、ホーム独自の理念を作成し、周知・共有するための復唱を、毎日朝礼で実施している。	地域密着型サービスの役割を反映させた理念を掲げ、来訪者にも分かりやすい文面でホーム内に掲示されている。また、毎朝の申し送り時に唱和する等して、日々のケアの振り返りや意識づけを行い、利用者が地域との交流を図り、社会参加ができるよう、理念を反映させた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方や民生委員、町内会等と気軽に挨拶して、声をかけ合っている。また、地域の一員としても認知され、行事や交流にも参加している。	町内広報にホーム便りを入れ回覧し、行事への参加を働きかけたり、ホームについて理解していただくように取り組んでいる。また、保育園児が散歩の途中に立ち寄ってくれたり、ボランティアを受け入れている他、地域住民からの介護に関する相談にも対応しながら、多方面で地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	見学や入居に関する相談、実習生やボランティアの受け入れ等、専門性を活かして取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーからは会議の意義や役割の理解が得られており、双方向に意見交換をしている。また、都度の活動報告以外にも、外部評価の取り組みや結果を報告して意見をいただき、参考にしている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、町会長や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得ている他、家族にも毎回、参加を呼びかけている。会議では防災訓練に参加した町会長から助言を得たり、町内の情報収集の場となっている他、自己評価及び外部評価結果や前回の目標達成計画等を報告し、今後のより良いサービス提供に向けて話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月のホーム便りを届けた際や運営推進会議に参加してもらった際に、情報を得られるように努力している。	地域包括支援センター職員が毎回、運営推進会議に参加している他、可能な限り、市職員の参加も得ており、利用者の生活のマンネリ化改善に向けた取り組み等、ホームのことを理解していただいている。また、パンフレットや自己評価及び外部評価結果、目標達成計画を提出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止のため、洗濯場と台所は施錠はしているが、ホーム内は自由に歩行できるようにしている。外に出る時は、車の往来も激しいため、職員が必ず同行している。	マニュアルを整備している他、身体拘束の具体的な行為について、月1回の会議や申し送り時等に、利用者への声かけ等も含めて話し合っている。車の往来が激しく、安全確保のために、家族の了承を得て、自動ドアセンサーを設置している他、帰宅願望等のサインをキャッチした場合は一緒に散歩に出かけ、気分転換を図っている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合に備えた書式も整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は外部研修へ参加して、虐待防止に関する理解を深めるように指導している。ホームには虐待防止マニュアルも設置している。管理者やユニットリーダーは職員の入居者への様子を観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は外部研修に参加して、理解を深めるように指導している。また、ホーム内には日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方がいるため、職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族にきちんと説明し、納得を得た上で契約に至っている。退去時にも退去理由を説明し、納得をされた上で退去届けを提出していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱を設置している。また、面会時に直接意見や要望を伺っている。	面会や利用料の支払い、受診後の電話報告時等、家族から直接、意見・要望を聞いている他、ホーム内外の苦情相談窓口を明示したり、毎月、ホーム便りを発行する等、意見等が出しやすい環境整備に努めている。また、普段話さない利用者には散歩や入浴時、1対1となる機会を利用し、意見等を把握するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員全体のミーティングやユニット毎のミーティングを設け、職員全体で話し合いを行っている。	月1回の職員会議や毎朝の申し送り時等、職員が意見交換できる場を設けている。食事は利用者の飲み込み状況に応じた軟らかさに変えたり、掲示をする際は画びょうの使用から、静電気を利用した「どこでもシート」に変更する等、職員の気づきや意見がケアに反映されている。また、職員の異動はほとんどなく、職員は利用者一人ひとりの個性を尊重したケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場の状況の他、職員の日々の勤務状況や努力について把握している。休みの希望もできるだけ叶えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の職員は積極的に外部研修に参加している。関連施設で行う勉強会にも参加し、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加入しており、県支部の研修等に参加し、同業者との交流を深めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者から何でも話してもらえるような雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメント後より、随時、家族からの相談も受けている。また、こちらからも伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	買い物同行や病院受診等、家族ができない時は代行し、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員からの一方的な支援ではなく、入居者本人の「できる事」を見極め、参加していただき、入居者と職員が共同し合いながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を保ち、出来事や状態報告等、随時、連絡に努めている。遠方の家族には毎月写真を入れて、状態を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、本人や家族からアセスメントを行い、馴染みの場所や友達との交流等を保てるように努めている。	センター方式のアセスメント等により、利用者の馴染みの場所や行きたい場所、馴染みの人、会いたい人等を把握している。また、電話や手紙のやりとり、こだわりの化粧品の買い物等の支援に取り組んでいる他、美容院や墓参り、外食等は家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が円滑にコミュニケーションが取れるように、職員がお手伝いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、移転先の関係者に入居中の状況や生活歴等を伝え、環境への配慮や継続性の必要事項等をお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や状態を把握して検討会議を実施し、サービス計画書を作成している。変化があれば、その都度、見直しをしている。	利用者とのコミュニケーションを大切にしており、職員は笑顔と優しさで接し、利用者が思いや意向を表出できるケアに努めている。利用者が食欲がなかった時、家族からの情報を基に缶コーヒーとジャムパンを提供したところ、食欲が出た事例があり、随時、家族等から情報収集を行い、職員で共有しながら、日々の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族からの聞き取りを行い、本人の馴染みの生活が少しでも長く送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントでの調査で、生活歴や個々のスタイルに応じたケアを提供している。生活の中で、本人の過ごし方を観察し、暮らしやすくなるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの他、毎月のユニット会議で、職員からの気づきや家族からの要望等を反映したケアプランの作成に努めている。	利用者や家族の意向を聞き、職員で情報を出し合って支援方針を立案し、個別で具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。日々の申し送りや職員会議で、モニタリングや状況課題を話し合い、短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直しを行っている他、利用者の身体状況の変化等に応じて随時見直しを行い、家族に説明し、同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段とは違う小さな変化等を個人記録に残し、毎月のミーティングで話し合い、個々に合ったケアを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の要望等、必要に応じた送迎サービスにも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の生徒や保育園の子ども達が手作りした作品を持って来てくれたり、交流を保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の意向に合わせ、かかりつけ医への受診に行く際は、日々の状態等の情報を提供している。	入居時、法人の協力医療機関の説明を行っている他、利用者や家族の選択により、希望する医療機関を受診できるよう支援している。法人の医療機関への受診時は職員が送迎している他、必要に応じて他科への受診も支援し、電話等で家族に報告している。また、新たな疾患が発生し、担当医から直接家族に説明があった場合等も、受診結果の共有化が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化でも関連施設の看護師に連絡し、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、入院先のケースワーカーや看護師に情報交換をお願いし、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のケアは行っていないが、家族や本人の意向を聞き、要望があれば、できる限りホームで安心した生活を送ってもらっている。	重度化や終末期の対応を行っていない旨、ホームの方針を明示しており、食べられなくなる、立位保持ができなくなる等を判断基準としたマニュアルを作成し、法人の協力医療機関と相談しながら、入院等の適切な対応、支援を行っている。また、日常的な健康管理は法人医療機関の看護師に相談し、急変時の対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署に依頼して、普通救命講習の研修を開催し、職員のスキルアップに努めている。また、応急手当普及員講習の研修も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練も含め、年2回、避難訓練を行っている。その中で、夜間を想定した訓練も行っている。	災害時のマニュアルを作成し、夜間も想定して訓練を行っており、利用者と一緒に避難場所までの時間を測定し、車椅子や歩行器使用者を優先しながら、5分を目標として取り組んでいる。また、地域住民に訓練への参加を呼びかけている他、定期的に設備点検を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れずに、敬う気持ちで援助を行うように心がけている。	月1回の会議や日々の申し送り時に、利用者への言葉かけや対応方法についての指導や話し合いを行い、呼称も「さん」付けとして馴れ合いを防ぎ、一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。食事時も職員は耳元でゆっくりした声で話しかけ、一人ひとりの尊厳を大切にしている他、個人情報外部の方に見えないよう、事務室で適正に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々のレベルに合わせた対応を心がけ、自己決定ができる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを把握し、本人の生活リズムが崩れない程度に、本人本位の対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな衣類を着たり、装飾品や化粧品をして、その人らしさを維持できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食器拭きやテーブル拭き等を手伝ってもらっている。	管理栄養士による献立作成でバランスのとれた食事を提供しており、利用者の好みに応じて代替食を取り入れている。職員は穏やかな声で話しかけたり、笑い合い、楽しい食事となるように支援している他、可能な範囲で、利用者にテーブルや食器拭きを手伝っていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回確認し、普段と違う場合は記録して、個々の状態を常に管理・把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日昼食後に義歯洗浄を徹底し、それでも汚れが目立ってくれば、夕食後にも義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録にし、トイレ誘導を定期的に行い、本人の希望時に誘導もを行っている。また、コップ等の消毒も徹底している。	排泄チェック表から利用者の排泄間隔の把握、排泄サインをキャッチし、早めの声がけや誘導をしており、日中はおむつやパットを使用している方ではなく、適切な誘導により、トイレを利用している。また、トイレへの声がけ時は他の方に聞こえないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や水分の摂取等、普段より多めに取り入れながら、便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	本人の希望した時や、便・尿失禁時にも入浴を行い、個々に合った対応をしている。	個室のため、一人が着衣を終えてから次の方が入るという方法で、プライバシーが守られており、希望者には同性介助を行っている。入浴を拒否する方には時間を置いたり、別の職員の声がけにより対応している他、浴室での転倒や湯あたりのないように見守り、安心・安全に楽しい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その都度、体調をみて、個々に休息を取り入れたり、夜間は照明等の工夫で、安心して眠れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された場合や薬の変更時は、職員全員が周知できるノートに、どのような薬が処方されたのかを記している。また、薬の副作用等にも気をつけながら観察し、主治医に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、レクリエーションの時間を設け、他者との交流を図ったり、天気の良い日は入居者全員で散歩をしたり、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、ユニットで外食支援・外出支援を行っている他、家族の協力も得ながら、個々の外出支援も行っている。	四季に応じた花見やドライブの他、ホーム内での多彩な行事を計画し、利用者の気分転換や五感刺激の機会づくりを支援している他、買い物や散歩等、個別の外出支援も行っている。遠出時には安全性を下調べし、法人のマイクロバスを使用して出かけており、その日の体調で拒否する方には無理に勧めず、本人の意向に合わせている。また、墓参りや外食等、必要に応じて家族の協力も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力量に応じ、自己管理できる方には対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば、荷物を出したり、手紙を出す等して対応している。また、公衆電話もあり、本人が電話したい時は自由にかけられるようにしており、できない方には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、レクリエーションで手作りした物を飾ったり、観葉植物を置き、空間整備に努めている。また、外出時の写真を飾っている。	共用空間は清潔で明るく、壁には季節の外出時の写真を飾られ、観葉植物も置かれている。利用者が思い思いの場所で寛げるよう、ソファやテーブル等を配置し、必要に応じてさりげなく席替えを促しながら、居心地良く過ごせるように配慮している。また、職員の作業音やテレビの音量は適度で、日射しには二重カーテンで調節している他、温・湿度は一日に3回確認の上、業務日誌にも記録し、快適な空間となるように管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、いつも寛いでテレビを観られるようにしている。また、気の合う方同士で会話もできるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の部屋には馴染みの物を置き、本人が過ごしやすいようにしている。	利用者が大切にしている位牌や鏡台、化粧品等が持ち込まれ、思い出の家族の写真や作品を飾り、本人が過ごしやすい居室づくりを行っている。また、持ち込みの少ない方にはホームの行事の写真や職員と一緒に作成した作品を飾っている他、利用者の動線も考慮して余計な物を置かないことで、安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー化されている。また、他者の居室やトイレを間違わないように表札を付けたり、目印等を工夫して、自立した生活が送れるように努めている。		